

ジェンダー平等ミーティング

11月22日(水)テーマ

「男性育休から考えるジェンダー」

共催：厚生労働省

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「男性育休から考えるジェンダー」

講師：関本さん（東京海上ディーアール株式会社研修講師）

< 現状と課題 >

- ・2000年くらいを境に共働き世帯が専業主婦世帯を上回る
- ・性別役割分担意識が変わってきている
- ・女性活躍のためには、男性の家事育児参画は不可欠
- ・男性の家事育児に対する意識は世代間でギャップがある
- ・妻が夫よりも家事育児を多くしているのが現状
- ・育休取得率 男女で大きな差

「男性育休から考えるジェンダー」

講師：関本さん（東京海上ディーアール株式会社研修講師）

< 現状と課題 >

- 「取得したい」と思っている男性は多い（希望と現実が乖離）
- 『育児介護休業法』 → 性別の規定はない
- 福利厚生は就職活動の際にも気にしてみるとよい
- 『産後パパ育休』 休業中に一部仕事も可能
柔軟な育休取得につながる
- 諸制度 → 「両親で協力して取得」するためのもの

「男性育休から考えるジェンダー」

講師：関本さん（東京海上ディーアール株式会社研修講師）

< 現状と課題 >

・取得のメリット

男性
女性
職場
女性活躍
家計

・育休取得は「手段」

男性も女性も（だれもが）仕事と家庭を
両立できるようになることが大事

感想

・ジェンダー平等ミーティングでは、男性の育休制度に焦点を当てた活発な意見交換が行われた。共通の意見として、男性が育休を取りやすくすることが、より健全な家庭と職場環境を促進する鍵であることが挙げられた。また、男性育児休暇制度が男性、女性、家族、企業にもたらすメリットについても触れられ、この制度が社会にもたらす変化に期待したい。

・若い男性の家事育児への意識が高いことに驚いた。日本が欧米に比べて育児休暇等の面で遅れている一つの要因として私が考えるのは、雇用形態です。ジョブ型雇用の導入推進が叫ばれていますが、まだまだ年功序列が抜けていません。だから家事は女性がすべきだという50代以上の方が管理職に残り、若い男性が育休を取得するのを阻んでしまう構造にハマってしまうのだと考えます。若くて成果をあげられる人が早く昇進し、各業界で世代交代を起こすことこそ男性育休の取得率をあげることに繋がると考えています。

感想

- ・育休などのことは、まだあまり考えたことがなかったので、今日詳しく知れて良かった。また、グラフを見たところ若い人たちは家事・育児は男女共にやるものと考えている人が多いけれど、実際に男女共に家事・育児をやっている人はどれくらいいるのか気になった。
- ・産後パパ育休や、育休を取得した場合の収入の変化については知らなかったのでも勉強になりました。男女が平等に社会参画できるようひとりひとりのなかにある偏見をなくしていくことが大切だと考えました。またそのためには長期的な取り組みにはなりますが、講演会の実施や教育の現場でジェンダーバイアスについて人々が学ぶことで社会から少しずつそういった偏見を取り除いていくことが必要だと思います。
- ・男性育休を取得したいのにできない状況は改めるべきだと思った。男女問わずできることはあるのに男女で分かれているものがあるのは直していくべきだと感じた。

感想

・メンバー内に、今回のディスカッションの課題に対して「何故それが悪いのか」という根本的な疑問を提示してくれたお陰で、根本的な疑問に気づくことができた。また、個人的に充実した、言い換えれば、楽しいディスカッションが出来た。

・最近だんだんと男性が育休を取れるようになってきている中で不安がある人のためにも休んでいる間の周りの人のサポートや戻ってきても安心して働けるような制度があっていいと思いました。また、男性と女性でどちらか片方が育児や家事も分担するのではなく2人で協力し合いながらすることが必要だと再確認することができた。

・議論の場では的外れな意見かもしれないが、問題だと思うものについて問題視しすぎなのではないかと思った。今現在いまいち問題だと議論されるものについての問題を問題だと理解できていないので腑に落ちるまで色々な人の意見を聞きたい。

感想

- まだまだ幼少期からのジェンダー平等教育が足りていないからこそこのような議論をしなければならないなと感じました。
- 男の人の育休はもっと当たり前になって欲しいと考えています。これが当たり前にならない現状、より多くの人に当たり前になるようSNSやメディアに取り上げることが重要だと感じました。
- 育児休業についてテレビで見ることはありましたが、実際にどのような制度であるのかはあまり知らず、制度取得についてあまり考えたこともなかったもので、制度について知ることができ、交流して考える機会があって良かったと思いました
- 今回のミーティングで男性の育休や、職業の男女比率について考える機会になった。

感想

- ・今回受けて男性も育休をとっていく必要があると感じられた。また、自分の身の回りにも無意識のうちに男女どちらがやってもいいものをどちらかに固定していたことに気づくことができた。
- ・グラフを見て、そんなに取得率少ないんやーと思いました。取得しやすい環境づくりが必要なのかなと強く思うようになりました。
- ・男性の育休の法律がこれ程整っているのにこのような場でなければ知ることが出来なかったのは惜しいと思う。もっと男性たちに広がり育休取得率が上がって欲しいと考える。
- ・色々な考えの人と意見を共有しながら自分自身の考え方を整理出来て貴重な体験だったと感じた。
- ・性別についての問題が少しでも減ればよりよい社会になると思った。

感想

・初対面の人とグループになり、緊張しましたが、司会として積極的に会話を回し、結果として多くの意見が出て良かったです。特に女子会はあるけど男子会はないという意見は自分になく、女性向けの取り組みによって、かえって男性の敷居を上げているという内容に至ることができました。私は男性ですがベビー用品店でバイトしており、男の子は珍しいと言われることが多々あります。PTAなどもそれと同じで性の偏りを気にしない人が積極的に参加することが大切だと思いました。男性女性を問わずにやりたいこと、好きなものを発信できる社会にしていきたいと思いました。

・様々な考えが出る中で、思いやりの心が大切なのは、という意見がでていました。とても楽しい話し合いで、なぜそうするのか、どうしてそのことが問題なのかと考えさせられるような話し合いができたと思いました。